

翔洋



北海道厚岸翔洋高等学校長 三田村 司

P T A ・ 学 校 通 信
厚岸翔洋高校 P T A
総 務 部 編 集
No.40

去る四月八日北海道厚岸翔洋高等学校第十二回入学式を執り行いました。三十五名の入学生を新たに加え、全校生徒百三十五名での新年度がスタートしました。

二月頃より新型コロナウイルス感染拡大の影響で、昨年度末の臨時休業や卒業式の中止等あり、新年度スタートは心機一転との思いでスタートのはずでしたが、入学式も新入生と教職員のみで簡略した入学式となり、P T A 会長はじめご来賓の挨拶も省略、式としては寂しいものではありましたが、真新しい制服を着た新入生の皆さんを見たときは、気が引き締まる思いでした。この入学生を立派に卒業させることが私たち教職員とP T A の役割であると改めて思ったところです。また、四月下旬には緊急事態宣言が発令され、全国の学校が臨時休業となり、五月の一ヶ月間本当に何も出来ない状況となりました。

六月学校再開後は、今まで当たり前に出ていた学校行事や各種大会、実習等が軒並み制限され、長期乗船実習の中止、部活動における各種大会の中止延期、学校行事の「見学旅行」の中止、生徒会行事の目玉「翔洋祭」の中止、P T A 活動では「体験乗船」の中止等、今まで当たり前に出ていたものが、当たり前に出来ない状況になりました。このような状況の中、生徒たちは、いつ開催

されるかわからない大会に向け文句も言わず、目標を持って一生懸命練習している姿を見て、「素晴らしいな」「成長したな」と目を細めていたところです。

さて、標題にも書きましたが「両輪として」、ご存じのとおりP T A の組織は、P (保護者) T (教職員) の組織です。生徒を中心とした教育活動を支援するものです。中心はあくまでも生徒です。

その生徒が本校で三年間学校生活を送る中で、様々な部分で迷いがあると想います。学校では担任はじめ教職員が教育相談等で支援を進めております。一方生活時間の多くを家庭で過ごしているわけですが、保護者の皆様も良きアドバイザーとして親子で、家族で色々なことを話し合っていたらいいと思います。そして、生徒が三年後自分の進路に向け、旅立つことが本当に大切なことだと思います。

そのためにも保護者と学校が両輪となって、生徒一人一人が自己実現出来るよう支援していきたいと思えますので、今後ともP T A 活動にご理解とご協力をお願いします。

平成二十一年四月一日、厚岸潮見高等学校と厚岸水産高等学校の統合により「翔洋」と称して発刊いたしました。
「翔洋」からは、「大きな太平洋にはばたく前向きなイメージ」が連想されます。



新入生



1年B組



1年A組

高校三年間は大人になったための準備期間であつ

一年A組担任 山本 健太郎

期待と希望を胸に、晴れて本校へ入学された新入生の皆さん、ご入学おめでとう、ございます。

未だ新型コロナウイルス感染症が世の中で猛威を振るい、入学式は規模を縮小して挙行了したもの、その一週間後には長期の臨時休業を余儀なくされ、非常に残念で寂しい状況となりました。

六月からは通常の学校生活に戻り、改めて高校生であるという自覚と誇りを持ち、将来への目標実現に向けて様々なことにチャレンジし、日々努力してもらいたいと思っています。

私は、「高校三年間は大人になるための準備期間である」という言葉を生徒達に伝えていきます。日頃から何を学んでいくか、何の力を身に付けていくかをこの三年間でしっかり考えて行動し、実行してくれること

未来へ向かって

一年B組担任 佐々木 悠太

新入生の皆さん、ご入学おめでとう、ございます。今年は新型コロナウイルスの影響で世界中が混乱する中、無事に四月八日の入学式を迎えられたことを大変嬉しく思います。

現在、緊急事態宣言や新しい生活様式など、社会全体が大きく変容していく中で、私たちはこの困難を乗り越えて、未来を切り拓く力が問われます。皆さんが高校を卒業するときどういう状況になっているか、想像も難しいと思います。

そんな予測できない未来に対応するべく、高校三年間でどのような力をつけなければならぬでしょうか。理解力や想像力、体力や努力を継続する力、コミュニケーション能力といった

を心から願っています。時には挫折することや道に迷うこともあるはずですが、そんな時には大切な仲間と共に助け合い、我々大人からのアドバイスや助言をもらいながら再度、自分自身で考えて行動し、決して厳しい困難を乗り越えてくればと思います。きつと三年後には一回りも二回りも成長した大人へとなっているでしょう。



体験乗船を振り返って

一年B組(普通科) 神 健太郎

九月十一日から一泊二日の体験乗船実習がありました。初めての宿泊を伴う授業だったので楽しみでもありました。少し緊張していましたが、乗組員の敬礼が素早く動いていて、かっこよかったです。

次に船内見学をしました。船は外から見るとそこまで大きくないと思っていましたが、中はすごく広く驚きました。その後すぐに、昼食を食べました。昼食は塩ラーメンが出ました。船の中とは思えないほどの美味しさでびっくりしました。

出港後、班ごとに分かれて体験当直を行いました。最初に無線室に行きました。無線室はとても静かでいろいろな機材がありました。次にブリッジに行くと船の操縦を体験しました。機械が、船を自動で目的地に連れて行ってくれることにとてもすごい機械だなと思いました。次に機関室に行きました。海水を水に変える機械や、発電機などがたくさんありました。大きな機械が設置してある部屋に入ると、すごい爆音で耳がおかしくなるくらいでした。機関士の人はこんなさまじいところで仕事をしているのだなと思いました。その後、夕食を食べて入浴し、就寝しました。寝ているときも揺れていた

のでなかなか寝付けなかったです。下船日の翌日、朝早く起床し朝食を食べました。朝食の味噌汁はとても温かくておいしいかったです。下船式後、帰宅しましたが、家に着いたら頭が痛くなりました。船での生活は、たった一日ということですが、わからないことだらけでしたが、乗組員の方々の指導のおかげで雰囲気は掴め、当初の目標は達成することができました。これからの学校生活に活かせるように頑張りたいと思います。

乗船実習を終えて

一年海洋資源科 鈴木 零二

九月十三日、三泊四日の乗船実習で苫小牧市を目指して釧路港を出港しました。最

新任紹介

- 1 前任校
- 2 担当教科
- 3 趣味・特技
- 4 抱負

菊地 翼

北海道釧路江南高等学校
数学
旅行、スポーツ全般
厚岸翔洋高校が3校目の勤務となります。微力ですが、これまでの経験を生かしながら、生徒のために全力で職務にあたりたいと思います。皆様のご協力のもと、生徒の未来のために頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

近藤 春菜

北海道厚岸翔洋高等学校
事務
リフレクソロジー
昨年に引き続き厚岸翔洋高校での勤務となりました。生徒の皆さんが過ごしやすい学校生活を送れるようにサポートをさせていただきます。誠心誠意頑張りますので、よろしくお願いいたします。

竹原 生奈里

北海道常呂高等学校
国語
夕日を見る、音楽鑑賞、カーリング
毎日、海の色が違うことに感動しています。厚岸でおいしいもの、美しいもの、そして新たな学びに出会えるのを楽しみにして来ましたが、生徒とともに、学ぶ喜びを感じられるよう努力します。よろしくお願いいたします。

成田 由佳

藤女子大学(出身大学)
家庭
映画鑑賞、旅行
初めての土地で慣れないことも多いですが、生徒とともに私も成長していきたいと思っています。生徒が楽しく、学びのある学校生活を送れるよう精一杯努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

丸田 宏平

浦河町立浦河第二中学校
地歴公民
ソフトテニス
今年度から厚岸翔洋高校で勤務となりました。初めてのことで不安な気持ちばかりですが、一生懸命頑張りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

柳屋 朱里

北海道阿寒高等学校
保健室
ドライブ、旅行、ボウリング
釧路管内での勤務は、三年目となります。生徒たちが健康で、有意義な学校生活を過ごせるよう、心身ともに、全力でサポートできればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

翔洋高校アラカルト

着任式・前期始業式



入舎式



妊婦体験



調理師コース実験・実習



企業実習



防災センター見学



進路保護者説明会



体験乗船(1年生)



短期乗船(2年生)



ブレドライバーズセミナー



各種実習

